

子どもたちの自助能力の向上について ～学校における防災教育の現状と課題～

教育局 保健体育課

1 国の動向（文部科学省）

気象災害、地震災害、火山災害など様々な自然災害が発生しており、今後も、気象災害の激甚化や南海トラフ巨大地震等の大規模な災害が懸念されており、児童生徒等の命を守り抜くためには、これまで以上の実践的な防災教育の推進が必要。

防災教育の目的

- ・ 自然災害について理解を深め、適切な意思決定や行動選択をできるようにする
- ・ 災害の危険を理解して自らの安全を確保する行動や日常の備えができるようにする
- ・ 学校や家庭、地域の安全活動に進んで参加し、貢献できるようにする

学校においては「学校安全計画」に位置付け、教育活動全体で指導します。

教育課程

- 関連教科 { 理科→地震・水害発生
のメカニズム
社会→消防署の活動
体育→災害時のけがに
対する知識 等
- 道徳
- 総合的な学習の時間
- 特別活動（避難訓練等）

2 第2期高松市教育振興基本計画

基本目標

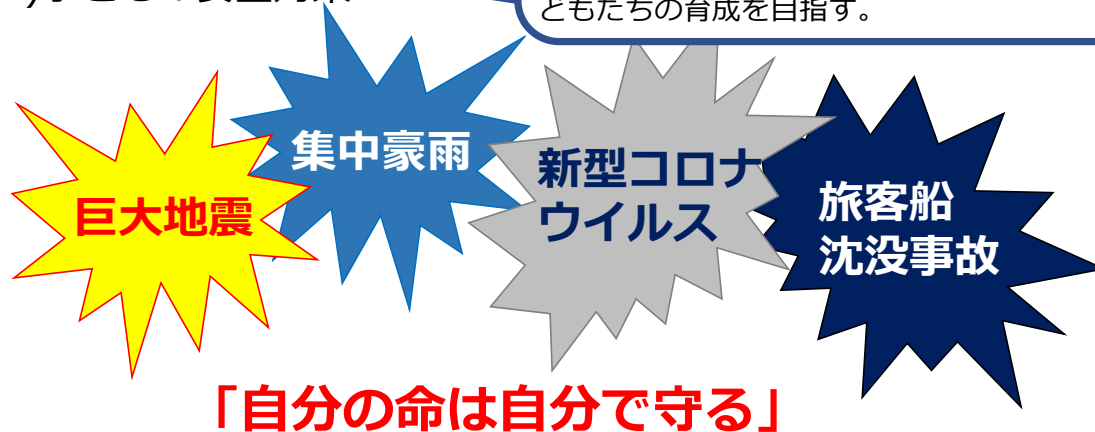
Ⅲ 子どもの安全確保

1 子どもの安全対策の推進

(1) 子どもの安全対策

対応方針

子どもたちが防災に関する基礎的・基本的な知識・技能を習得するとともに、それらを活用して「自分の命は自分で守る」ことのできる能力を育成することや、地域と連携して、地域防災の担い手となる子どもたちの育成を目指す。



p2

3 学校における防災教育の現状（1）

▶ 「地震を想定した避難訓練」の実施

	実施した	実施しない
小学校 (みねやま分校含)	48校	0校
中学校・一高	24校	0校
計	72校	0校

令和元年度 学校安全に関する調査より

※土砂災害や河川浸水を想定した避難訓練を実施している学校もある。

p3

3 学校における防災教育の現状（2）

- ▶「地震を想定した避難訓練」において、子どもや教職員が主体的に行動できるような様々な場面を位置付けたか

	位置付けている	位置付けていない
小学校 (みねやま分校含)	4 3 校	5 校
中学校・一高	1 4 校	1 0 校
計	5 7 校	1 5 校

令和元年度 学校安全に関する調査より

※様々な場面とは… 休憩時間や登下校時間の想定、負傷者への対応、避難経路に障害物の設定や防火扉を閉める、事前に明確な発災時間の予告を行わずに実施する など

p4

3 学校における防災教育の現状（3）

- ▶学校安全の取組に関する授業公開や成果報告会、研修会等を実施し、他校や地域への情報共有を行ったか

	行った	行っていない
小学校 (みねやま分校含)	3 2 校	1 6 校
中学校・一高	1 0 校	1 4 校
計	4 2 校	3 0 校

令和元年度 学校安全に関する調査より

p5

4 学校における防災教育の課題（1）

★地震を想定した避難訓練は、全ての学校において実施しているものの、主体的に行動できているだろうか？

1 学校における防災教育の現状（2）

▶「地震を想定した避難訓練」において、子どもや教職員が主体的に行動できるような様々な場面を位置付けたか

	位置付けている	位置付けていない
小学校 (みねやま分校含)	43校	5校
中学校・一高	14校	10校
計	57校 (79.2%)	15校 (20.8%)

令和元年度 学校安全に関する調査より

より実効性のある
防災教育へ転換し
ていく必要がある

p6

4 学校における防災教育の課題（2）

★学校で実施する防災教育の見直しが、学校内だけに留まっていないか？

1 学校における防災教育の現状（3）

▶学校安全の取組に関する授業公開や成果報告会、研修会等を実施し、他校や地域への情報共有を行ったか

	行った	行っていない
小学校 (みねやま分校含)	32校	16校
中学校・一高	10校	14校
計	42校 (58.3%)	30校 (41.7%)

令和元年度 学校安全に関する調査より

他校や地域、関係機
関等との積極的な連
携が重要である

p7

5 学校の防災体制強化と子どもたちの安全確保を目指して（1）

地域との連携事例（栗林小学校「防災学習授業参観」において）

令和元年6月22日（土）実施



水消火器体験



煙体験



A E D体験



バケツリレー体験



担架搬送体験



防災学習

p8

5 学校の防災体制強化と子どもたちの安全確保を目指して（2）

防災学習の内容例（栗林小学校「防災学習授業参観」において）

令和元年6月22日（土）実施

学年	授業参観の内容	体験・見学学習の内容
1年	「もし、じしんがおきたら？」 （学校編）	「非常食・非常携帯」
2年		「非常時に必要な物を知ろう」
3年	「急な天気の変化から身を守ろう」 ＜自然災害編Ⅱ＞	「防災訓練に取り組もう」 バケツリレー、水消火器、煙体験
4年		
5年	「自分にできる防災対策を考えよう」	「救助訓練に取り組もう」 担架、練習用AED
6年	「阪神淡路大震災に学ぼう」 （震災時の暮らし編）	

p9

5 学校の防災体制強化と子どもたちの安全確保を目指して（3）

★「学校安全計画」の見直し

年間の取組における成果・課題を基にした見直し

★実践的な防災教育の実施

学校と家庭、地域が連携した防災教育の実施

例）「小学生用防災教育副読本 地震がやってくる前に
みんなで考える香川の防災ブック」等の活用 →



★「危機管理マニュアル」の見直し

訓練等の反省・課題、地域住民、関係機関の専門家等の
助言も踏まえた見直し

★学校環境の安全確保

p10

5 学校の防災体制強化と子どもたちの安全確保を目指して（4）

今年度の取組

- 学校安全管理研修会 令和2年12月25日（金）
中学校区をベースとした地域性を踏まえた
「避難訓練モデル」の制作に向けた研修
- 高松市立小中高教頭研修会 令和3年2月10日（水）
「子どもたちの危機管理意識を向上させる防災教育」
をテーマとし、外部講師を招いて研修

p11

6 今後の課題

(1) 防災教育の充実

災害発生時において、児童生徒一人ひとりが状況を的確に判断し、「自分の命は自分で守る」ことができる能力や態度を育成するため、危機管理課と連携し、防災の専門家の派遣事業等を活用した防災教育の充実を図ること。

(2) 学校の危機管理マニュアル等の継続的な検証、見直しによる 学校における防災体制の整備

学校においては、所在地の災害状況や通学路等、地域の危険箇所の再確認を行い、危機管理マニュアル等の継続的な検証、見直しによる防災体制の整備を図ること。

(3) 実効性のある避難訓練の実施による関係機関等との 連絡・協力体制の構築・整備

保護者や地元消防署及び自主防災組織等と連携した避難訓練の実施等により、連絡・協力体制を構築・整備すること。